

学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川

至誠学園

平成 20 年 3 月 15 日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://www.shisei.org/> e-mail: info@shisei.org

発行責任者 施設長 高橋 久美子

子どもたちの求める施設づくりを目指して

至誠学園は、明治 45 年に稲永久一郎翁が二人の不良少年を自宅で療育することに始まりました。まもなく百年を迎えようとしています。

戦後、昭和 26 年に新たな児童福祉法による児童養護施設として開設したときは、60 名の定員でしたが、今日では定員 82 名の施設へと拡大しました。

開始当時は、戦災孤児などの社会的養護を目的とした家庭の代替施設でしたが、時代の変化と社会環境の変遷に合わせて、家庭で養育されない子どもたちの社会的養育の場として、社会や家庭の保護者に代わって、望ましい養育を提供する場へと変化してまいりました。

しかし、今日の児童虐待の問題などが社会的問題として表面化し、そうした問題を発見し、早急に保護、または予防することが求められ、児童養護施設に措置されるケースが急増しています。これらは保護者の不適切なかかわりだけでなく、その行為によって受けた児童の内面の問題をいかに是正するか、という問題も含んでいるのです。

このような児童の抱える個別の問題に対応するためには、施設を小規模化し、一定地域にある小規模施設を統合し、それを支えるシステムを形成していくことが必要であると考えています。

現在では、至誠学園の入所児童は、7 つのグループホーム、本園内の 4 つのユニットに分かれ、それぞれの地域の中で生活をしています。

今、東京都内の一時保護所も児童養護施設も、いずれも定員いっぱいですが、施設入所には、通告・相談により児童相談所の調査、決定とともに、保護者の同意と本人の同意が必要です。また、入所施設を利用者が選択することができるようになりました。

「地域の中で暮らしたいのでグループホームのある施設へ」「高校や大学に進学できる施設へ」「ザリガニ採りができる川があるような自然の豊かな施設へ」といった、児童の希望がかなう制度へと変化してきています。

入所する児童本人の希望と自主性を尊重し、自己実現が可能な施設づくりを、至誠学園は目指してゆきます。

大規模修繕工事終了

国・東京都及び共同募金会を通じての御寄附金と、自己資金をもって児童棟(銀杏)の大規模修繕工事を実施しました。ありがとうございました。



新装された ひばりホームのシステムキッチン

新しいグループホーム万願寺

地域小規模児童養護施設として新設された、グループホーム万願寺の運用が開始されました。

新しくきれいな建物で気分も新たに、子どもたちの生活が始まりました。

グループホーム万願寺は静かな住宅街に位置し、ホームの隣には子ども広場や神社があり、そこで子どもたちが遊んでいる様子が見えて、子どもたちも職員も安心できる環境です。

小学校区の端に位置していて、小学校へは 25 分ほどの通学時間がかかりますが、子どもたちは近隣のお友達をホームに連れてきて、一緒に仲良く、元気に遊んでいます。

入所児童は年齢の近い小学生ばかりなので、同時刻に帰宅します。帰宅時刻になるとホームは突然にぎやかになり、職員と宿題にとりかかる様子が見られます。

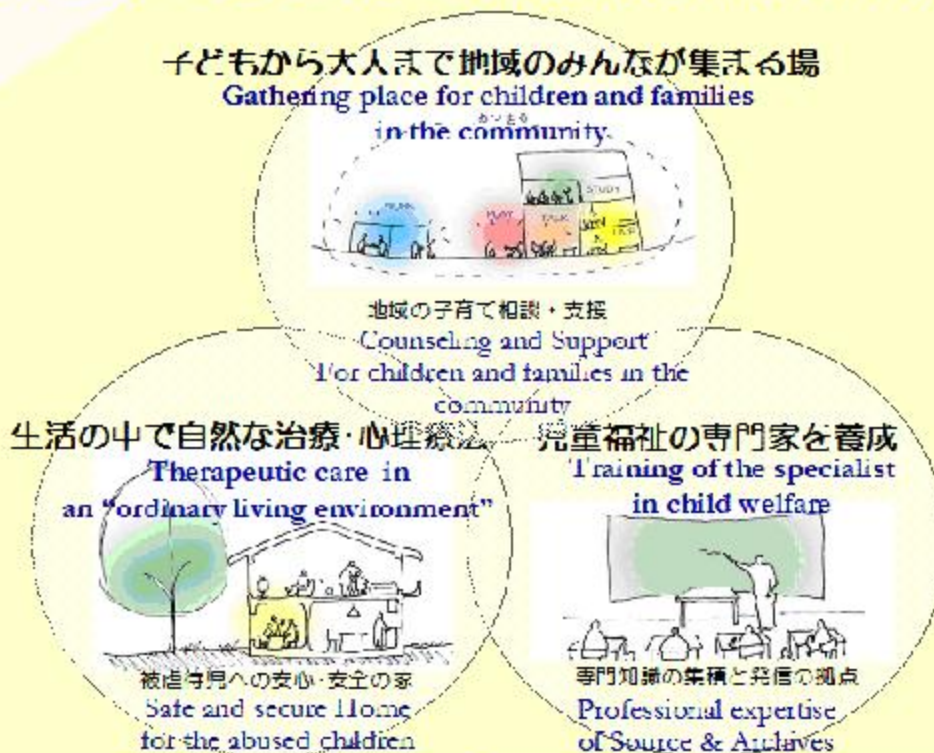
「みんなと遊ぶのが楽しい」「小学生がいっぱいでにぎやか」「ごはんがおいしい」とは子ども達の意見です。「広くてきれいだから」と複数の友人を連れてくる子がいても、あっという間に仲良くなり、みんな一緒に遊ぶことができるのはさすがです。

新しい友達を作ったり、ボランティアの大学生に勉強を教えてもらったりしながら、まだ慣れないながらも、少しずつ整ってきた生活環境の中で、子どもたちが自分の居場所を見つけたように感じられます。

職員一同、さらに子どもたちの個別のニーズを受け止めながら、よりよい環境を整えていきたいと心も新たにしています。

法人創設100周年記念事業 しせいセンチュリープロジェクト

至誠センチュリープロジェクトSHISEI CENTURY PROJECT



至誠学園 SHISEI GAKUEN Children's Home

中長期事業計画策定委員会の設置

至誠学園が将来にわたって、入所児童やその家族、地域社会に貢献していくためには、施設の継続が最も重要テーマです。そのためには、まず利益性の確保の方法を考えると、次は東京都の専門機能強化型施設として、ケアの専門性を追及するだけでなく、さらに新たな社会的ニーズに対して担うべき新しい機能を考えていく専門性の向上、最後に専門性を持った職員の育成について、以上の3つの視点を柱としています。

今までも学園は先駆的な児童養護施設として、外部への情報発信や行政への提言を行っており、これが職員のやりがいや高い使命感につながってまいりました。今後は、この中長期計画により個別の施設ごとでなく、業界横断的な人材の育成を視点に加えて活動したいと考えております。

第二至誠学園（仮称） 整備計画 進捗状況

平成 21 年度秋の開設に向け順調に準備が進められています。現在は設計が最終調整に入っており、年度内には最終決定する予定です。次年度になるといよいよ補助金や借入金の準備が始まります。備品も含めると総額約5億5千万円(予定)のこの事業はおおまかに、1億7千万円の補助金と8千万円の借入金、そして残りの3億円には寄附金を含めた自己資金が充てられる予定になっています。

これまでに無い次世代の児童養護ニーズに対応する施設にするため、今回の計画には人材育成部門などの補助金の対象とならない設備が多く含まれています。そのことにより法人の負担は大きくなりますが、より時代に即した質の高いサービスを提供するためにも計画にある機能は極力減らさずに進めていきたいと考えています。建築費だけでなく準備、運営など更に多額の費用を必要としています。未来を担う子ども達のために今後とも更なるご支援をいただきますよう、よろしくお願い致します。

施設の専門機能強化の取り組み

広く市民の皆様と

第4回児童虐待防止記念セミナーを実施

07/11/28

児童虐待の当事者からのメッセージとして、シンガーソングライターであり、音楽療法家である、岡田ユキ氏からお話をいただきました。岡田氏は、児童虐待防止を呼びかける市民活動団体、サークル・ダルメシアン代表として、過去の体験によって心を閉ざした子ども達の心の開放をサポートする活動を行っています。ご自分の体験をまじえ、お話をいただきました。最後は会場の皆様とご一緒に、歌で締めくくりました。

立川市、立川市社会福祉協議会、立川市民生児童委員協議会、東京立川ライオンズクラブ、東京立川ロータリークラブ、東京立川こぶしロータリークラブ、国際ソロプチミスト各団体のご後援をいただきました。

(参加者の感想より)

- 講師のお話から、自らの虐待体験を話される勇氣と長い時間をかけ様々な人との出会いの中で、苦しさを乗り越えられたことに敬意。
- 世間の常識がわからず、偏った価値観を身につけさせられたことによる苦悩の様子がとてもリアルに感じられた。私たちが支援していく人々と互いに取り組むべき課題であると再認識した。



児童養護施設職員対象

公開児童養護セミナー 08/2/14,15

昨年度に引き続き、今年度も東京都児童部会第6ブロックのセミナーを兼ねた公開児童養護セミナーを実施し、他児童養護施設の職員、養育家庭を中心に、また、里親さんの参加もあり、二日間でのべ120名を超える参加者を迎え、盛況のうちに終了しました。

皆川邦直・法政大学現代福祉学部教授、池上和子・東京医科大学八王子医療センター小児科心理講師、西澤哲・山梨県立大学人間福祉学部教授、高橋利一・至誠学園統括学園長の各先生方からのわかりやすいお話に引き込まれ、参加者の皆さんは熱心にメモを取りながら、集中して聞き入っていました。



心理の現場から

グループホームを巡回して

- 臨床心理士 若松亜希子 -

私は毎週日曜日にグループホームを巡回訪問し、子どもたちと一緒に遊んだり食事をしたりして過ごしています。

職員は現在、子どもたちの親代わりとして一緒に生活していますが、子どもたちには本当の家族がいます。子どもたちは普段明るく過ごしていても、家族と離れて暮らさねばならない状況から、心の根っこ部分には淋しさ・怒りなど複雑な想いを抱えていることが多く、情緒的に不安定になることもあります。

職員は、子どもたちが不安定になり様々な不適応行動を示すときも辛抱強く支えていきます。私は職員と一緒に「今どういう理由で不安定になっているか」「気持ちが落ち着くにはどうしたらいいか」を考えています。

子どもたちが自分の人生を前向きに歩いていけるよう、これからも職員と協力して一緒にサポートしていきたいと思っています。

本園を中心にして

- 臨床心理士 奥村晴子 -

心の重荷を抱えている子どもたちには、個別の心理療法を行っています。毎日元気に生活しているAちゃんですが、人形を使った「ごっこ遊び」では、怖いことが起こって泣いたり逃げたりする展開でしたが、セラピーを続けていくと、見守ってくれる人が登場するようになって、遊びにも落ち着きが出てきました。

生活と少し離れて守られた空間で、心の奥に抱えた「思い」を遊びや対話の中で表現していくことで、傷ついた心を回復していけるようにサポートしています。

困難事例に集中した心理的ケア

西澤哲先生(山梨県立大学人間福祉学部 教授)により、特に困難な事例を中心に、継続して毎月1~2回児童への面接と児童相談所、病院、学校と学園職員とのケースカンファレンスを実施しています。

西澤先生の専門的な立場からの助言に、職員は児童の現在抱える問題だけでなく、将来を見据えての支援の計画を立て、最善の支援を実施することができます。

入所児童家族へのかかわり

年に二回、春と秋に保護者会を開いて、そこで個別に子どもたちの成長の様子をお知らせしています。同じ時期に子どもを学園に預けている家族同士、家族の抱える様々な問題について情報を交換したり、共有したりしています。

学園主催の行事の時には、職員・児童と一緒に参加したりなど子どもたちの成長をともに体験したりして、ゆるやかなかかわりをしています。希望により、個別の相談を継続的に行うこともあります。

子どもたちの生活と取り巻く環境の変化

児童福祉法等の一部を改正する法律(案)国会へ

「子どもと家族を応援する日本」重点戦略を踏まえ、子育て支援に関する事業の制度上の位置づけの明確化、虐待を受けた子ども等に対する家庭的環境における養護の充実、一般事業主行動計画の策定の促進など、地域や職場における次世代育成支援対策を推進するための所要の改正を行うことになりました。

特に、社会的養護を必要とする子どもの数の増加、虐待などの子どもの抱える背景の多様化等を踏まえ、社会的養護の室、寮の充実を図り、体制整備を図るため、児童福祉法等の一部を改正することに決まりました。

概要

- 里親制度の改正
- 要保護地域対策協議会の機能強化
- 里親型ファミリーホームの創設
- 家庭支援機能の強化
- 年長児の自立支援策の見直し
- 施設内虐待の防止(被措置児童等虐待)

至誠学園では特に以下の点において、今までも様々な努力をし、報告書を提出する等、東京都や厚生労働省に働きかけをしてきました。今後も更なる経営努力をしていきたいと考えています

施設機能についての見直し

平成19年11月の社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会において提言がなされたことを受け、厚生労働省において調査を実施するとともに、その状況や結果について、同専門委員会に報告しながら、検討を進める予定になります。

子どもの状態や年齢に応じた適切なケアを実施できるよう原稿の施設の種類のあり方を見直すとともに、人員配置基準や措置基準の見直し等を含めて、ケアの改善に向けた方策を検討します。

このような見直しを具体的に進めるためには必要な財源の確保が必要であるとともに、現在施設内で行われているケアの現状を詳細に調査・分析することが必要とあります。

子どもたちの冬 そして新春

お正月

昨年4月に“学園のお母さん”が亡くなられたことから、学園は喪中と考え、静かにお正月を迎えました。

書初めやゲーム大会、受験生は合格祈願に谷保天満宮へお参りしました。グループホームの子どもたちは徳井様のご招待で、御宿・勝浦でお正月を迎えました。

至誠学園友の会行事 (1/2)

友の会の皆さんからボウリングにご招待いただき、一緒に汗を流しました。夕食後は卓球をしたりビデオを一緒に見たりして楽しみました。



新年式 (1/7)

新しい年の始まり、各ホームでの目標を発表しました。

成人を祝う会 (1/14)

今年は2人の卒園生が成人式を迎えました。ワインで乾杯し、学園長、施設長、職員から祝福を受け、2人はしっかりと新成人としての抱負を語りました。



節分の日の豆まき (2/3)

「鬼は外、福は内」と学園内に豆をまきました。鬼の姿をしたお兄さんと子鬼の福の神が現われてにぎやかでした。また、鬼のお面コンテストを行い、優秀作品が選ばれました。



ひなまつり会 (3/2)

女の子が園長先生、男の子、職員のお兄さんを招待しました。桃の節句にちなんだ美味しいごちそうをいただいたり、女の子と職員のお姉さんが日本舞踊を披露したりしました。



この他にも数多くの機関や団体の皆様に行事活動のご招待、ご協力をいただきました。紙面の都合上、ご紹介しきれませんでした皆様には、この場を借りまして御礼を申し上げます。

学園と地域交流・国際交流

国際ソーシャルワーカー連盟

デビッド・ジョーンズ会長ご夫妻・ジョン・アンさん
日本ソーシャルワーカー協会岩崎浩三先生が同行され来園

国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)とは、ソーシャルワーカーの国際的組織です。1928年パリに設立され、本部をジュネーブ(スイス)に置き、世界各国70余の組織が加盟しています。日本も日本ソーシャルワーカー協会を調整団体にして加盟しています。IFSW会長デビッド・ジョーンズ氏のお嬢さんが以前学園に滞在されていたこともあり、そのお礼も兼ねての訪問となりました。

Thank you for your kind hospitality and the chance to visit the home. Thank you also for looking after Rebecca when she visited Japan. With best wishes for your important work.

David N. Jones, President, Int. Federation of Social Workers, Nottingham, UK.

I am impressed with the management of this place. The children are obviously happy, well cared for and loved. The best compliment I can give you is that it feels like home.

All the best. *John Ang + Doreen Ang (Ms)*
Member at Large
IFSW
(Singapore)

リリアン・ブライアン先生が来日されました

モンテッソーリ講習会(2008/1/13)

モンテッソーリトレーニングセンターの名誉教授による講習とあって、学園ホールは地域の保育園の先生方を中心に、100名近い出席者でいっぱいになりました。

モンテッソーリの「外側の秩序は子どもの内なる秩序を整え、知的な秩序を構成する」ということから、リリアン先生は「例えば、非常に混乱し注意欠陥の子どもに、私たちは直接治すことはできないが、環境の中で安定をもたらすことによって、子どもに落ち着きと自信を与え、子どもを助けることができるのです」と語られました。



2008 ガーデンパーティ
平成 20 年 5 月 4 日実施

すべての子どもたちの幸福と健やかな成長を願い、子どもたちにとってこの日の体験が未来に広がる夢と希望の原動力になるような楽しい一日とする。

私たちはこの活動を通して、地域のなかで支えあいながら、子どもたちを護り育てていけるような環境を目指したい。

そして、未来を担う子どもたちのために、すべての大人が共に考え協力していくという社会啓発の機会となることを期待して実施する。

今年もこの準備のために、学園と各種ボランティア団体の皆様による実行委員会が開催されます。ここで、子どもたちのための様々な楽しい企画が決定され、実施されます。

皆様、今年もどうぞよろしくご協力下さい。

実行委員会へのご参加を
よろしくお願いたします

日時：2008年3月16日(日) 14:00から
場所：学園かしの木プラザホール

立川市要保護児童対策推進協議会に参加

- 地域の皆様と情報交換・交流しました

立川市では、子ども家庭支援センターを中心に、6つのランチに分かれています。学園は錦町羽衣町地域になりますが、学園長が副委員長を引き受けています。参加者は、児童相談所、民生委員・児童委員、福祉施設関係者、地域の方たちです。

地域では、子どもたちはそれぞれの場で様々なかかわりをして、異なった表情を見せています。この状況について、立場の違う様々な視点で見た情報を共有し、話し合いをすることで、子どもたちの状況が繋がって見えてきます。ここから、子どもたちのための様々な支援の方法が、考えられてくるのです。

日野市子ども家庭在宅支援機能として

日野市こどもショートステイ事業の増強

かねてからの計画であった在宅支援事業である日野市との協働により、子どもショートステイ事業の定員を2名から4名に増加し、受け入れ年齢も、兄弟の場合はそれまでの12歳から中学3年生までとすることになりました。

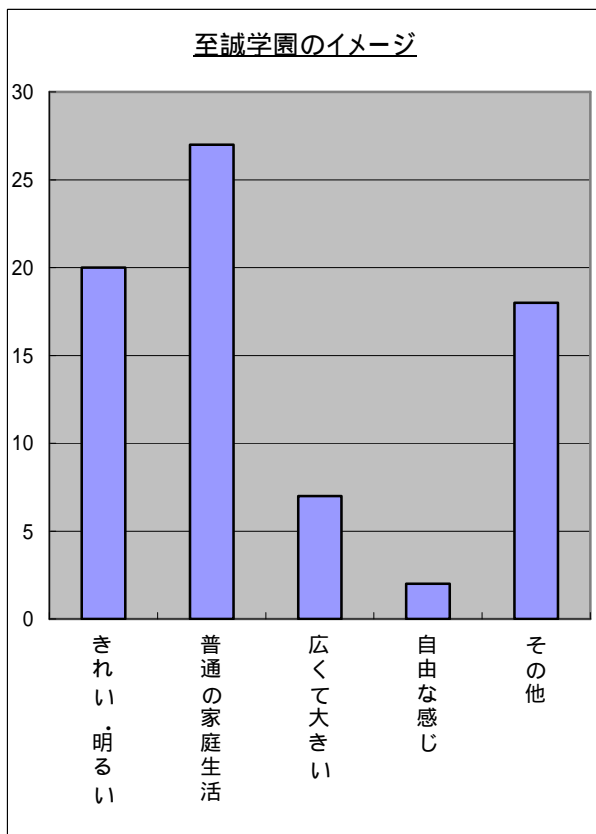
これにより、日野市における学園のサテライトシステムがさらに機能することになります。

大学生の見学者アンケートから

見学することで82%の人の意識を変えました。

至誠学園に見学を訪れた大学生105名を対象に、アンケートを実施しました。

見学終了後の印象、意識の変化を尋ねたところ、それまでの児童養護施設への印象と比較して、「非常に違った」「少し違った」を合わせると、82%の人が「違った」と回答しました。ホームを見学してみて感じたイメージ(自由記述)では、「きれい・明るい」、「普通の家庭生活」が多いことがわかりました。



職員表彰

東京都社会福祉協議会児童部会 10年勤続表彰

「学園のお姉さん」歴10年 木山さん

たくさん悩み、苦しいこともありました。しかし、それ以上にたくさんの嬉しさややりがいを見つけました。これからも精一杯、心を込めて子ども達に接し、ともに歩いていきたいと思ひます。

「事務職」歴10年 福島さん

毎日の事務仕事に追われながらも、周りの皆様に支えられて表彰を受けることができました。今後は少しでも支える側に回ることができるように、心がけていきたいと思ひます。

今後の主な予定

- 3/15 卒園式
- 3/16 ガーデンパーティ実行委員会
- 3/25(予定) 卒業を祝う会
- 3/29 理事会・評議員会
- 3/末予定 学園のお母さんを偲ぶ会
- 4/1 辞令交付式
- 4月 新年度式

2008 ガーデンパーティ

日時: 5/4(日) 10時~14時30分

会場: 学園園庭とその周辺



昨年のガーデンパーティの様子

「一緒に時を刻む」

高橋利一学園長は3月2日で満69歳を迎えられました。毎年、子どもたちや職員から「お誕生日のお祝い」に手作りのプレゼントが贈られています。

今年は、写真のような手づくり時計になりました。学園長と各ホームの子どもと職員の顔写真の入った時計です。ともに、大切な時間を過ごしていることを実感します。



編集後記

今年もまもなく根川の桜が満開になるでしょう。皆様どうぞお越し下さい。児童福祉法の改正など、子どもたちを取り囲む世の中の動きはめまぐるしいものがあります。変化している社会の影響は、子どもたちだけでなく、私たち大人にも直接及んできて、変わらざるをえません。大事なことをはずすことなく、変化を取り入れて柔軟にしていきたいものです。

(編集一同)